

地域連携推進会議 議事録		管理者	サービス管理 責任者	記録
会議名	地域連携推進会議			
日時	令和7年1月19日(日)	9時00分～11時10分		
場所	アロハ男子寮2階食堂			
出席者	施設長 サービス管理責任者 世話人2名 公民館長、公民館婦人部長 当事者様、当事者様親族			
■会議内容 会に先立ち、サービス管理責任者より地域連携推進会議の概要の説明 1. 開会の挨拶：アロハ施設長 地域連携推進会議開催の経緯と目的、本会をきっかけとした地域との連携強化について。 2. 出席者紹介 ・スタッフ紹介 サービス管理責任者、世話人の紹介。「世話人」の名称の存在と施設内での役割についても説明。 ・出席者紹介 当事者様 → 親族様 → 公民館長 → 公民館婦人部長 ・出席者代表挨拶：公民館長 3. 会議 ・施設見学・・・アロハ男子寮2階 → アロハ男子寮1階 → アロハ女子寮 築年数や過去に病棟や民家として利用されていた時期からの遷延の説明、掲示物の内容紹介、清潔保持のための取り組みについて解説。また個室内や共同スペースにも入っていただき、実際の広さや利用の際に機能性等を体験していただく。 ・日常の様子を紹介・・・パンフレット等に加え週末の余暇活動の取り組みについて紹介。記載内容以外にも、みなと病院と連携し週に1回定期的に看護師の体調観察を受けていることと地域の公共施設、機関の利用も自由にできることを紹介。 公民館長より「思っている以上に自由がある。私たちと変わらないか、それ以上の生活をされている。」とのご意見あり。 ・経営状況の報告・・・令和6年度の会計報告書等を用いて紹介。 ・利用者様の権利擁護について				

① 虐待・身体拘束・事故・ヒヤリハットについて

- ・世話人より：虐待権利擁護についてのアロハでの取り組みを紹介。身体拘束の無い現場であるが、その他の虐待の通報先の提示や事故、ヒヤリハットの報告内容と件数、未然に防ぐための日々の取り組みや自己研鑽の為の研修参加を行っていることも説明。公民館長より「テレビで見るような縛り付けたり、抑えたりするのは極端な例であることが分かった。」とのご意見あり。施設長からは医療機関においては安全上、やむを得ない対応として身体拘束があることも説明。

② ストレスチェックについて

- ・サービス管理責任者より：法人としてのストレスチェックに加え、自施設内で年に2回行っているチェックリストの紹介。入所者様の安全を第一としながらも、職員のメンタルヘルスへの配慮も同時に重要であることを説明。公民館長より「やはりストレスってありますか？」と問われるが、スタッフ個人の発散方法の紹介や精神疾患のある方への対応特有のストレスというよりは、仕事をするにあたっての社会人としてのストレスである印象なことを説明。

③ 衛生管理・感染防止について

- ・世話人より：自施設内での取り組みを紹介。衛生管理、感染症及びまん延防止についての掲示物や日々の除菌作業、伊集院保健所からの通達内容に則した助言、掲示物を用いた周知徹底を行っていることを説明。

④ 苦情対応・意見箱について

- ・施設長より：アロハ内のご意見箱の役割や過去の投書内容の紹介。投書のすべてが職員への感謝の手紙であることや、投書には至らないが現場職員が日常的に受ける相談内容についても数例紹介する。

⑤ 防災(火災・地震)・体調急変時・トラブル対策について

- ・サービス管理責任者より：それぞれの項目ごとにアロハでの取り組みを紹介。火災通報装置や受診盤は施設管理係と提携業者、消防署が連携し必要時(交換時や定期の立ち入り)に点検や訓練を実施していることを説明。地震についても後述するBCPの存在や備蓄、避難経路と避難先を紹介。体調急変時には夜間電話連絡者がいることを紹介し対応内容を解説。施設内外のトラブルが現在発生または報告がないことを紹介する。公民館長より「こっち(公民館側)にもそのような話はないです。」と互いの状況も確認できる機会となる。また、地域でも避難訓練等は行っているが、実際の場面はおそらく訓練が役に立たない。公民館としても今一度考えを改めたいとの意向話される。

・ BCP について . . . 厚生労働省からの通達内容、アロハ BCP (災害時) を用いて説明

また、先日の日向灘沖地震 (いちき串木野市震度 4) の経験から新たに、夜間 22:00 までに震度 4 以上の地震が発生した場合は、各寮の担当者が電話連絡し、精神的動揺や家屋の状況を確認することと決定したことも報告。

・ 個別対応

・ 施設長、公民館長、婦人部長 : みなと病院の見学も兼ね、避難経路の確認と災害時の地域の避難先としての提案

・ 当事者様、親族様、アロハ職員 : 支援内容の報告と支援の希望、自宅外泊及び外出時の移動手段としてのバス利用の体験と訓練の意向確認を行う。

・ まとめ

・ 各構成員からの感想・質問・要望

公民館長 : 今日は施設の中も見て、知ることができてよかった。女子寮は元知人宅であったこともありある程度は様子が分かっていたが、男子寮は周りから見るだけではどんな様子かがわからない。今日は入所している皆さんの様子も知ることができた。昨今のニュースなどで見る施設での虐待の報道は極端な例であることが分かった。今後はみなと病院を地震津波の際の避難場所として開放していただけることも地域の安心に繋がる。地域の避難訓練なども実施している。これからもお互いに協力できることはしていきたい。

婦人部長 : 女子寮の前を通る際に歌が聞こえたり、姿を見ることはあったが声をかけていいのか、建物を訪ねていいのかわからないままだった。今日は説明、紹介を聞いて中のことが分かって良かった。今後、入所者の方々を見かけたら声をかけたい。スタッフへの質問として「入所中の皆さんにかけたらいけない言葉などありますか」との問いがあったが、特に心配ない旨を説明する。

親族様 : 本人とご両親をセパレートし、本人の自立を促すため 3 年前に入所させた。今多くのことをグループホームの職員さん方に手伝ってもらいながら、彼女は大きく成長したと思う。ここは周りからは中の様子が分かりにくく、『怖い』印象をもたつ方もいらっしゃると思うが、ここはそういう場所ではない。いつも本当にお世話になっていると思う。これからもよろしくお願いします。

4. 閉会の挨拶

本日の会をきっかけとして、今後も地域と施設が互いに理解を深めあっていきたいことと、本会に構成員としてご参加いただいた皆様へ感謝を伝え終了となる。また、ご参加いただいた構成員の皆様に対し、当事者様が利用されている就労支援施設で販売されているお菓子をお土産に準備させていただき、就労先の紹介をいただいた。障害がある方が訓練を受けながら、収入も得られる福祉サービスならではの就労に仕方に感心されている印象であった。